

① 「将来の夢・希望」

「一段落目」今までどんな夢を持ったことがあるか

(例)

小さい頃は単純に、そして素直に、いろんな夢を持っていたと思います。幼児の頃は、アニメに出てくる特殊能力を持ったスーパーヒーローに憧れ、魔法使いやら海賊やら忍者やら、スタンド使いやらに本気でなりたいがっていました。ある程度もの心がついてからは、医者になりたいとか、警察官になりたいとか、弁護士になりたいとか、海上保安官になりたいとか、その時々ヒットしたテレビドラマに応じた夢を持ち、妄想の中で活躍する自分に浸っていたりしました。でも、それらは、実際のところなかなかないものだと思います。

「二段落目」自分の夢について思うこと

(例)

弁護士や医者になるにはかなりの学力と努力が必要です。もちろん頑張れば、今からでもなれないわけではないでしょうが、妄想もしばらくすれば飽きてしまうもので、根性振り絞てなりたいと思うほどの憧れは、もうありません。警察官や海上保安官は、上の階級さへ目指さなければ、そんなに学力がなくてもなれそうです。しかし、妄想の中で繰り広げられる激しいバトルに、リアルで遭遇したいとは思わず、また、安全な裏方の部署の警察官や海上保安官に魅力を感じられるほどには、大人でもありません。それに、テレビドラマにあるような華やかな物語は、それよりも圧倒的に多い地味で大変で退屈な毎日のお仕事を覆い隠していると思われ、安易に憧れてはならないというのが今の僕の素直な現実感覚です。

「三段落目」本当に自分がやりたいことは何か

(例)

では、他に何かやりたいことがあるかというと、よく分からないのが実際のところ。今のところ、とびぬけた得意分野があるわけでもなく、国語も英語も数学も音楽も体育も、成績は皆、そんなに悪くはない、ぐらいいのレベルで、自分のことながら個性を特に感じません。職業以外でも、例えば世界一周したいとか、宇宙に行ってみたいとか、大金持ちになりたいとか、田舎暮らしをしたいとか、そういう夢も思いつきません。平凡でいいので、大きな不幸には遭いたくない、と望むぐらいです。ただ、強いて将来の希望を挙げると言われるなら、僕も少しは他人の役に立って、誰かに必要とされるような存在でありたい、とは思います。もしも、よりたくさんさんの人の役に立ち、よりたくさんの人に必要とされる人間になれば、それはきつと、スーパーヒーローの妄想なんかよりも、ずっと気持ちのいいものなんじゃないかなと思います。

「四段落目」結論・まとめ(自分の意見)

(例)

僕に何ができるのかは、まだよく分かりません。だけど、少数数でも構わないので、誰かの役には立てる人間になるために、いろいろ修行をしていかなければならないと思います。